

# 景況調査

報告書 NO. 19

平成15年 4月～6月 実績  
平成15年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

## 平成15年度第1四半期(H15.4～6月)景況調査

1. 調査時点 平成15年7月

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内  
 (2) 対象(回答)企業 169[162企業、7団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、愛知県ホテル・旅館生活衛生同業組合蒲郡支部、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	59 (3)	15 (2)	25 (1)	41	17 (1)	12	169 (7)

( )は団体

5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、**前年同期比**で見ると 26.6、前期(1～3月・ 40.4)と比較すると13.8ポイントの上昇、**前期比**で見ると 27.8、前期(1～3月・ 39.8)と比較すると12.0ポイントの上昇、いずれも改善の傾向が見られた。また、**売上DI値**についても、前期比で見ると 31.4、前期(1～3月・ 41.7)と比較すると10.3ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**は 33.1、前期(1～3月・ 42.3)と比較すると9.2ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H15.7～9月)見通し**についても 20.1、前期1～3月・ 36.5)と比較すると16.4ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。

「**製造業**」のうち**水産食料品**は、季節的に需要の停滞期のため、また地元水産物を主原料とするところでは、水揚げ量の減少による原価高のため売上・収益・業況とも悪化している。**織物**は、ジャカードカーテン、ドビーカーテンともに、全般的に仕事量は少なく、また白生地織物は何とかあるが、先染織物については、全般には仕事量・採算面は厳しく、稼働率は悪くなっている。**染色整理**は、生産効率の低下に加え、中国繊維製品輸入の増大等の影響により、総受注加工量も減り、全般的に停滞している。**漁網・ロープ**のうち、繊維ロープは、全般的に業況の底打ち感が見られたが、海外からの輸入量は大幅に増加している。漁網は、漁業不振により需要減退。**鉄工**のうち、工作機械関係は、回復傾向であるが、業況にバラツキがあり、加工賃も相変わらず厳しい。自動車関連は、小型低価格車の販売が堅調で、そのため部品加工メーカーは底堅いが、こちらも加工賃は厳しい。**木材**は、シックハウス症候群対策を目的とする建築基準法の改正により、JIS・JASも改正され、その対応で市場は混乱状態である。「**建設業**」は、公共工事は削減ムードが強く、民間工事は、大型案件が少なく、受注競争も激しい。「**卸売業**」のうち**繊維卸**は、<産業資材関連>:全体に荷動きが悪いが、商品にバラツキがあるものの、多少動きが出てきている。<寝装関連>:素材ではマイケイスイオン・抗菌効果等を狙った機能商品の取組み、超長綿使用ジャカード素材・T/C交織素材の新商品開発に取り組んでいる。<インテリア関連>:5月連休明けからの落ち込みがひどく、シーズンオフに入り厳しい。<衣料>:一番の稼ぎ時期を終え、冬物の商品に転換し、次につなげる時期に入っている。「**小売業**」は、個人消費の低調により、客数の減少・客単価の下落などほとんどの個店では売上が減少している。各商店街は、夏に向けてのイベントを企画中である。「**サービス業**」のうち**旅館**関係は、4月に行われた全国的な統一地方選挙が売上減少に大きく影響、5月にもその影響を引きずった。ゴールデンウィーク中も、飛び石連休による出控えで苦しかった。「**運輸通信業**」のうち**貨物輸送**は、<海運業>:景気低迷と住宅着工数の低下により荷動きが悪く、貨物取扱量も少ない。<陸運業>:5月の稼働日数の減少により、貨物量については、相変わらず低迷を続けている。<バス業界>:貸切バス、会員募集ツアーとも統一地方選挙等の影響で苦戦であったが、乗合バスはラグーナ効果により比較的堅調である。

**設備投資状況**は、全般的には低調だが、35事業所(49件)で設備投資が実施され、生産設備・OA機器・車両運搬具が上位にランクした。来期は32事業所(41件)が設備投資を計画されている。**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化が項目別・業種別で上位を占めていた。

**当地区においても**、依然としてデフレの長期化、雇用の停滞、個人消費の低調、設備投資の抑制、原油価格高騰による原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、アメリカ経済の停滞、中国・アジア製品の輸入拡大等の影響により、4～6月期の業況判断DIは、鉄工・木材木製品以外すべて水面下にある。集客力を誇る「ラグーナ蒲郡」を核とした活性化が有効で、観光・商業・運輸交通港湾・繊維などへの波及効果を期待する。

**全業種(当期実績)**

(DI 単位:%)

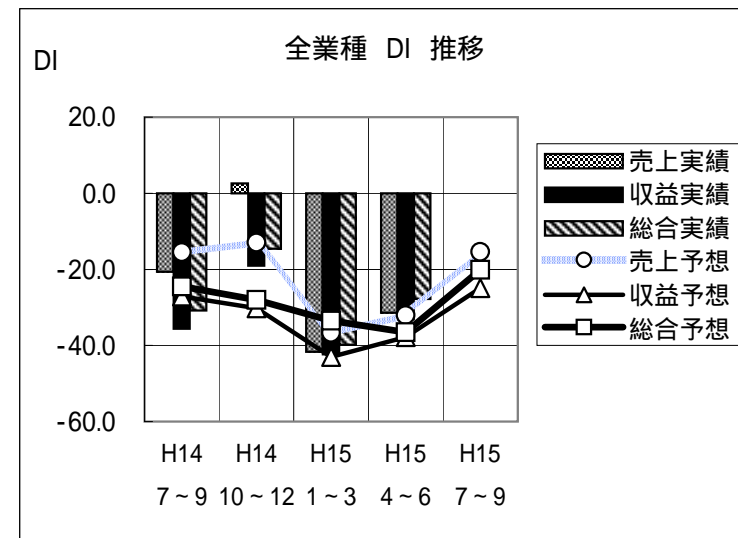
<全業種 各項目別期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
生産額・売上額	-37.3	-31.4	-15.4	H14. 4～6月実績	-36.1	-31.0	-38.7	-30.3	-33.5	-32.3	-24.5
製品・商品在庫	-11.2	-8.9	-11.8	H14. 7～9月実績	-31.5	-20.6	-45.2	-35.6	-37.7	-30.8	-28.0
資金繰り	-26.1	-21.9	-19.6	H14.10～12月実績	-31.0	2.6	-40.5	-19.0	-29.1	-14.6	-33.5
採算(収益)	-34.9	-33.1	-24.9	H15. 1～3月実績	-33.9	-41.7	-42.3	-42.3	-40.4	-39.8	-36.5
従業員数(含む臨時・パート)	-4.8	-4.1	-1.2	H15. 4～6月実績	-37.3	-31.4	-34.9	-33.1	-26.6	-27.8	-20.1
貴社の業況(総合判断)	-26.6	-27.8	-20.1								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
製造業				(繊維卸)			
(水産食料品)				小売業			
(織物)				(飲食)			
(染色整理)				(その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(木材木製品)				運輸通信業			
建設業				(貨物輸送)			



<業況判断DIの推移>

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-20.6	2.6	-41.7	-31.4	-15.4
収益	-35.6	-19.0	-42.3	-33.1	-24.9
総合	-30.8	-14.6	-39.8	-27.8	-20.1

**DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数) について**  
 DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)  
 製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)  
 資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)  
 従業員数 : DI = (不足) - (過剰)  
 業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 → 景気上向き  
 DIが0 → 景気横ばい  
 DIが0より小 → 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上 DI 6~49% DI 5~-5%

DI -6~-49% DI -50%以下

## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は 25.5、前期実績1～3月期( 36.2)に比して10.7ポイントの上昇。収益DI値は 30.5、前期実績1～3月期( 39.7)に比して9.2ポイントの上昇、総合判断DI値は 32.2、前期実績1～3月期( 32.8)に比して0.6ポイントの上昇、売上・収益・総合とも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも改善の見通しである。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-28.8	-25.5	-8.5
製品・商品在庫	-15.2	-15.2	-15.2
資金繰り	-32.2	-25.4	-13.5
採算(収益)	-28.9	-30.5	-18.6
従業員数(含む臨時・パート)	-6.8	-1.7	-1.7
貴社の業況(総合判断)	-23.8	-32.2	-16.9

### 【水産食料品】

売上は前年同期比DI値 57.1。個人消費の低迷により売上不振が続く。特に小規模の販売力の弱い企業にとっては深刻な状況が続いている。一部では新商品や直営販売店が好調の企業もみられるが、季節的に需要の停滞期であるため、前期比ではDI値 14.3と停滞。収益は前年同期比DI値 14.3、前期比ではDI値 42.8と悪化傾向。流通業者からの値下げ要請もあり、採算面でも厳しい状況が続いている。また、地元の水産物を主原料とする食品製造業では、水揚量の減少による原価高に苦しんでいる。総合判断は前年同期比DI値 28.6、前期比ではDI値 57.1。製造コスト削減により採算性が向上し、業況が好転している企業もみられるが、総じて悪化傾向にある。

#### 向こう3ヶ月の見通し

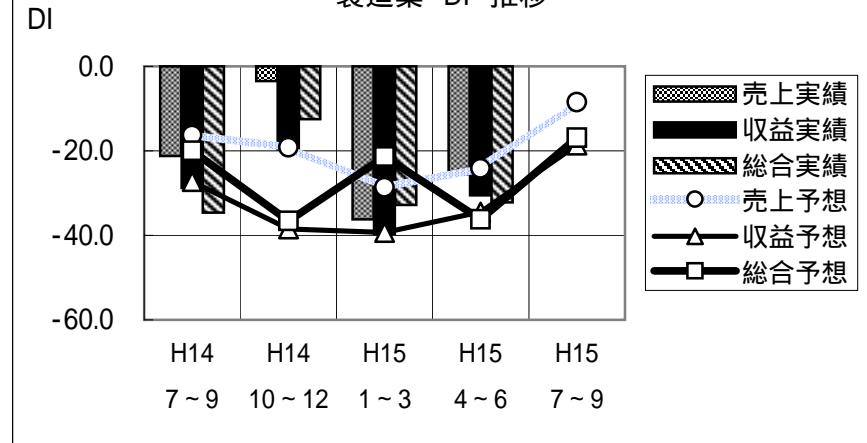
売上はDI値 14.3、収益はDI値 42.8、総合判断ではDI値 28.6。海外での最終製品化の流れの中、国内の原料加工産業にとって厳しい状況が続くと予想される。(食品部会)

### (水産食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-57.1	-14.3	-14.3
製品・商品在庫	14.3	14.3	14.3
資金繰り	-28.6	-28.6	-28.6
採算(収益)	-14.3	-42.8	-42.8
従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	-28.6	-28.6
貴社の業況(総合判断)	-28.6	-57.1	-28.6

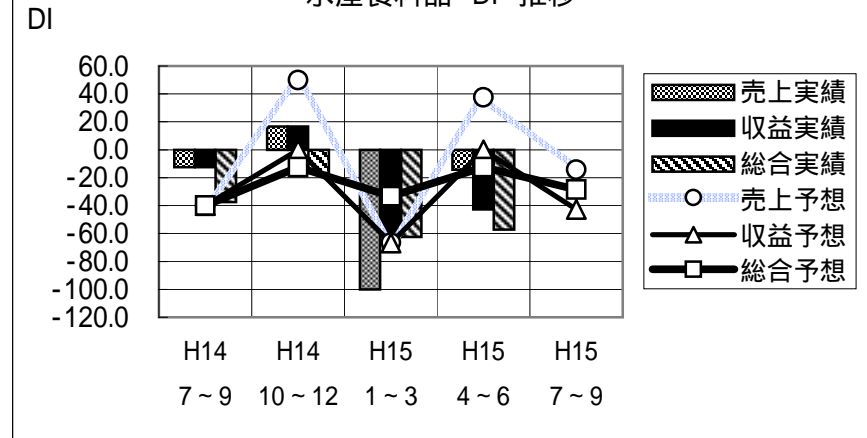
### 製造業 DI 推移



#### < 業況判断DIの推移 >

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-21.2	-3.5	-36.2	-25.5	-8.5
収益	-28.8	-19.6	-39.7	-30.5	-18.6
総合	-34.6	-12.5	-32.8	-32.2	-16.9

### 水産食料品 DI 推移



#### < 業況判断DIの推移 >

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-12.5	16.7	-100.0	-14.3	-14.3
収益	-12.5	16.6	-62.5	-42.8	-42.8
総合	-37.5	-16.7	-62.5	-57.1	-28.6

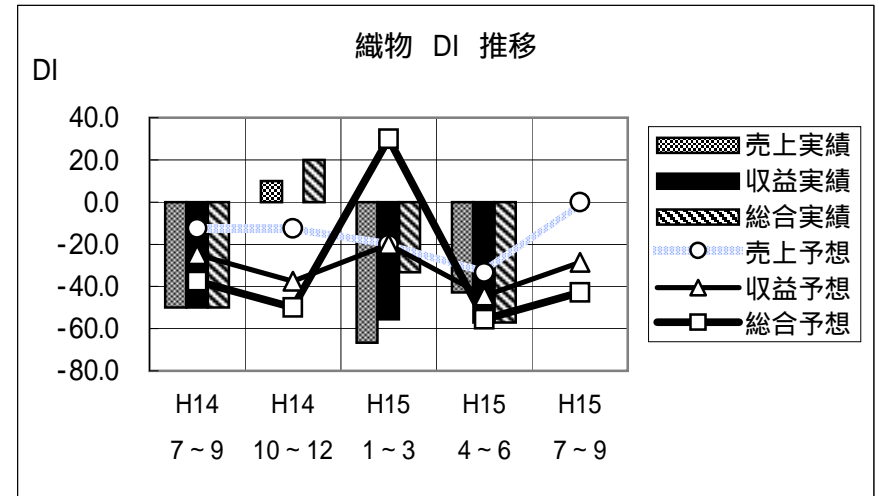
## [織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、全体に仕事量は少なく、稼働率は40%前後である。ドビーカーテンについても、仕事量は少ない。白生地織物は、広幅についても期近物中心に仕事量は出ているが稼働率は80%前後である。並幅については、仕事量の減少傾向が続いている。先染織物は、仕事量が少ないうえに加え、殆んど全てが少ロット物である。しかし、何れも採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。今後の見通し、ジャカードカーテンは、端境期に加え、中国からの輸入攻勢はますます強くなり、仕事量は減少すると思われる。9月になれば年末需要が見込まれ、多少回復するものと思われる。ドビーカーテンも同様である。白生地織物は、時期的に今期の横ばいであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主流であり仕事量の増加は見込めず減少すると思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、合繊糸が値上がり傾向となっており、工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借入れも難しい状況が続いている。(繊維部会)

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4~6月)	前期比 (平成15年1~3月)	来期見通し (平成15年7~9月)
生産額・売上額	-71.4	-42.8	0.0
製品・商品在庫	-28.6	-42.9	-14.3
資金繰り	-57.1	-57.1	-28.6
採算(収益)	-57.1	-57.1	-28.6
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-71.4	-57.1	-42.8



### <業況判断DIの推移>

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-50.0	10.0	-66.7	-42.8	0.0
収益	-50.0	0.0	-55.6	-57.1	-28.6
総合	-50.0	20.0	-33.3	-57.1	-42.8

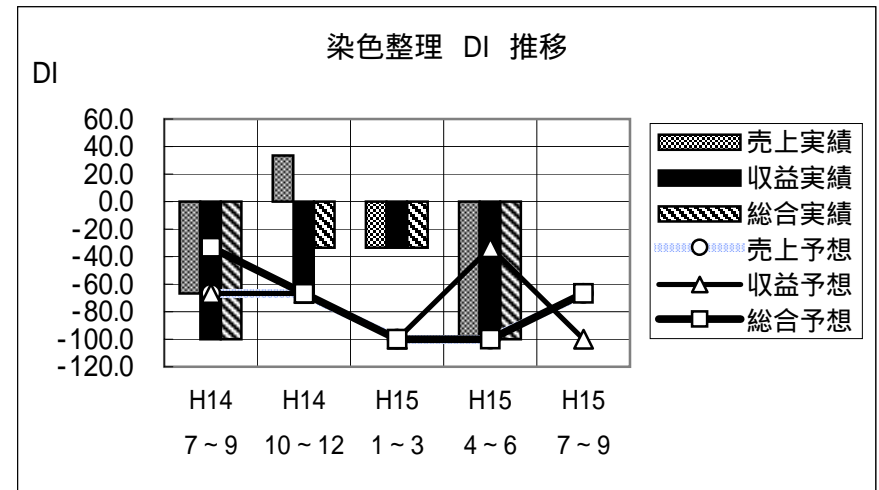
## [染色整理]

消費指向の多様化・個性化等にともない、少ロット・短サイクル・短納期の傾向はさらに進み、生産効率の低下に加え、繊維製品輸入の増大等の影響を受け、当業界の総受注加工量は、低下しており一般的に停滞している。今後の見通しについても、依然として低加工賃が続くものと見られ、採算性の低い水面下の厳しい状況が予測される。(繊維部会)

### (染色整理)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4~6月)	前期比 (平成15年1~3月)	来期見通し (平成15年7~9月)
生産額・売上額	-66.7	-100.0	-66.7
製品・商品在庫	0.0	0.0	-33.3
資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
採算(収益)	-100.0	-100.0	-100.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	33.3
貴社の業況(総合判断)	-66.7	-100.0	-66.7



### <業況判断DIの推移>

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-66.7	33.4	-33.4	-100.0	-66.7
収益	-100.0	-66.7	-33.4	-100.0	-100.0
総合	-100.0	-33.4	-33.4	-100.0	-66.7

## [漁網・ロ-フ]

< 繊維ロ-フ >

出荷量、出荷額とも前年より若干増加傾向を示しているところもあるが、全般的に業況の底打ち感が見られる。本年9月の定置網の免許更新時期を迎え、買い替え需要が見込まれる。反面、輸入量は昨年の減少への反動もあり、本年は大幅に増加している。

< 漁網 >

引き続き漁業不振により需要減退。特に、刺網業界は、日ソ漁業協定の不調により大きな影響を受けている。また、夏場は、季節的要因もあり、例年出荷は落ち込む見込み。

(繊維ロ-フ部会)

### (漁網・ロ-フ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4~6月)	前期比 (平成15年1~3月)	来期見通し (平成15年7~9月)
生産額・売上額	-40.0	-10.0	10.0
製品・商品在庫	-20.0	-10.0	-20.0
資金繰り	-40.0	-20.0	-10.0
採算(収益)	-40.0	10.0	10.0
従業員数(含む臨時・パート)	-10.0	0.0	-10.0
貴社の業況(総合判断)	-30.0	-10.0	-10.0

## [鉄工]

< 工作機械 >: 大手メーカーは回復傾向を示しているが、黒字に転換できず、収支をゼロに持っていきのがやっとである。下請の中小部品加工業者の業況はバラツキがあり、加工賃も相変わらず厳しい。工作機械による切削加工時に出る“ダライコ”の値が上昇して来ており、基礎資材(電気料金、材料、刃物、チタン合金など)も上がりつつある。

< 自動車部品関係 >: 自動車メーカーの生産台数は3月の反動なのか減少しており、小型低価格車の販売の方は堅調に売れている。部品加工メーカーは底堅いが、加工賃は厳しく、半期ごとのコストダウンの要請もあり利益確保は難しい。

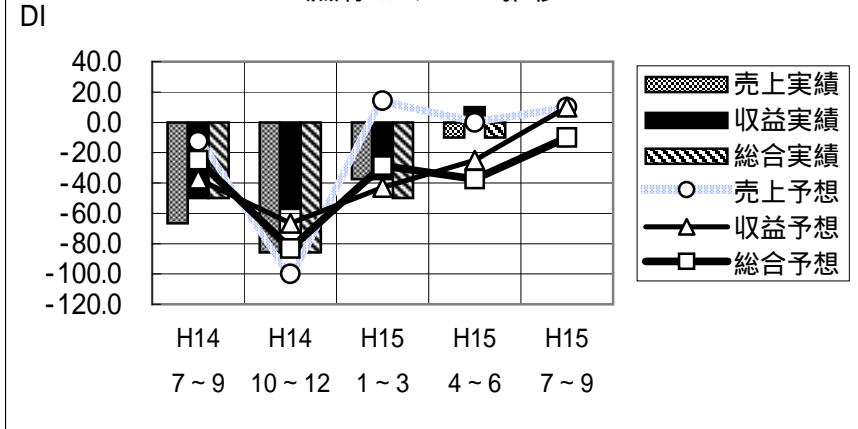
向こう3ヶ月の見通しは、液晶などIT関連は回復傾向にある。秋からの新車、モデルチェンジなどにより新部品も出てくると期待されるが、単価の兼ね合いで、改善があれば設備投資を考えているところもある。(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4~6月)	前期比 (平成15年1~3月)	来期見通し (平成15年7~9月)
生産額・売上額	5.6	-38.9	11.1
製品・商品在庫	-16.6	-16.6	-22.2
資金繰り	-27.7	-22.2	0.0
採算(収益)	5.6	-27.8	16.7
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	5.5	11.1
貴社の業況(総合判断)	11.1	-22.2	22.2

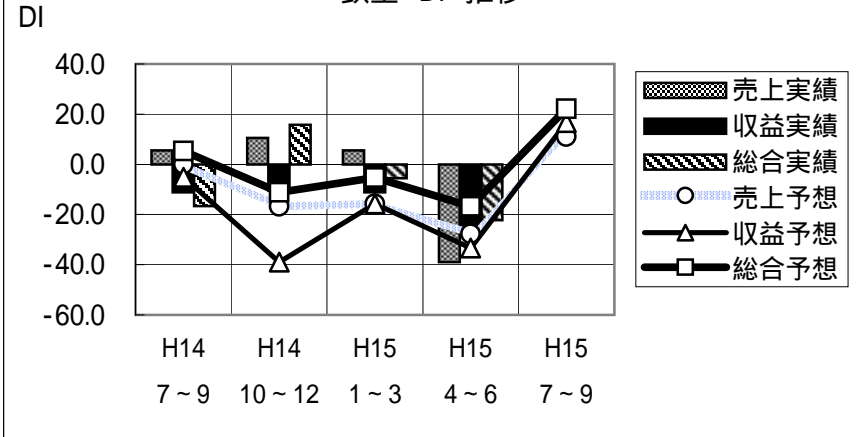
### 漁網・ロ-フ DI 推移



#### < 業況判断DIの推移 >

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-66.7	-85.7	-37.5	-10.0	10.0
収益	-50.0	-57.1	-37.5	10.0	10.0
総合	-50.0	-85.7	-50.0	-10.0	-10.0

### 鉄工 DI 推移



#### < 業況判断DIの推移 >

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	5.5	10.5	5.6	-38.9	11.1
収益	-11.1	-10.5	-11.1	-27.8	16.7
総合	-16.6	15.8	-5.5	-22.2	22.2



## [木材木製品]

シックハウス症候群対策を目的とする建築基準法の改正により、JIS・JASも改正され7月1日から新法が適用。合板、木材業界における需要サイドの各メーカーは、旧基準の在庫の処分促進のため発注をひかえており、現状は、流通在庫が大幅に減少している。国内の大手建材メーカーは、新JIS・JASへの対応を整いつつあるが、未だに対応の遅れている建材メーカーもある。また海外の合板メーカーも対応の遅れが見られ、市場は混乱状態である。

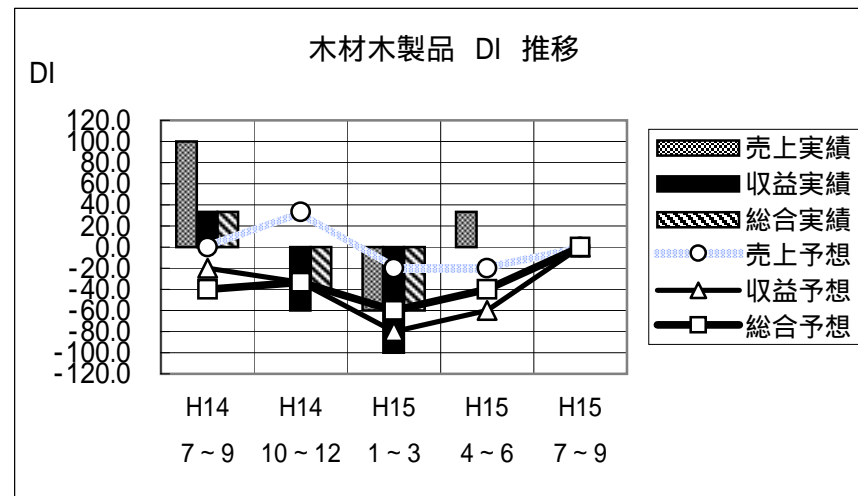
向こう3ヶ月の見通しは、

新基準が市場に浸透するには、まだ時間を要するものと思われるが、着実に適合製品が増加している。市場は最悪期を脱したものの、価格的には弱含み推移が見込まれる。原木価格も下げの動きがうかがえ、メーカー採算、やや持ち直しの兆しが見られる。(建設部会)

### (木材木製品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	0.0	33.3	0.0
製品・商品在庫	-33.3	-33.3	-33.3
資金繰り	0.0	0.0	0.0
採算(収益)	-33.3	0.0	0.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



#### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	100.0	0.0	-60.0	33.3	0.0
収益	33.3	-60.0	-100.0	0.0	0.0
総合	33.3	-40.0	-60.0	0.0	0.0

## 建設業

売上DI値は 46.7、前期実績1～3月期( 27.3)に比して19.4ポイントの下降、収益DI値は 60.0、前期実績1～3月期( 54.5)に比して5.5ポイントの下降、総合判断DI値は 20.0、前期実績1～3月期( 36.4)に比して16.4ポイントの上昇、総合では改善傾向である。見通しとしては、いずれも厳しいが改善傾向と思われる。

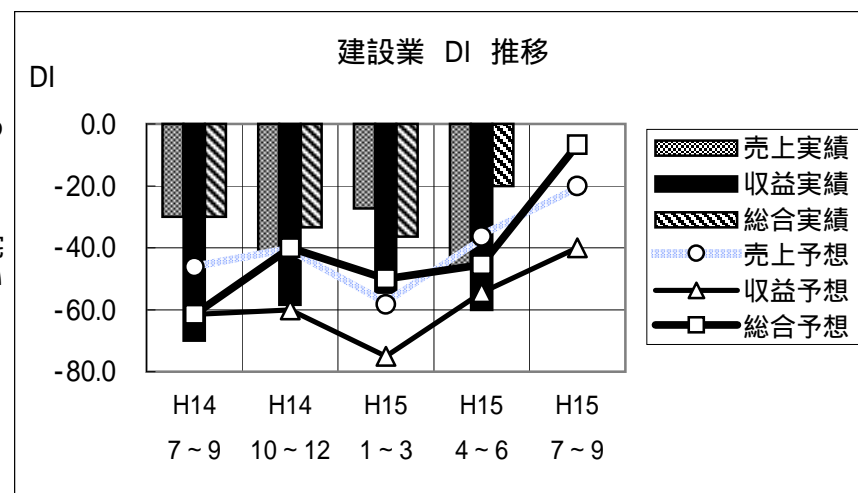
全体的な需要不足から受注競争が相変わらず激しく、請負単価の下落傾向が続いており、収益も圧迫気味となっている。公共関連は、削減ムードが強く、民間関連は、大型案件が少なく受注競争も激しい。住宅関連も低水準での推移が続いている。最近では、場外(名古屋)業者の営業攻勢でダンピングが激化している。との声もある。

向こう3ヶ月の見通しは、現在の状況に大きな変化はなく、厳しい状況が続くものと思われる。(建設部会)

### 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-26.7	-46.7	-20.0
製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-20.0
資金繰り	-13.4	-6.7	-20.0
採算(収益)	-33.4	-60.0	-40.0
従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-26.6	-20.0
貴社の業況(総合判断)	-13.4	-20.0	-6.7



#### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-30.0	-41.6	-27.3	-46.7	-20.0
収益	-70.0	-58.4	-54.5	-60.0	-40.0
総合	-30.0	-33.4	-36.4	-20.0	-6.7

## 卸売業

売上DI値は 28.0、前期実績1～3月期( 60.9)に比して32.9ポイントの上昇。収益DI値は 16.0、前期実績1～3月期( 39.1)に比して23.1ポイントの上昇、総合判断DI値は 24.0、前期実績1～3月期( 56.6)に比して32.6ポイントの上昇と、いずれも改善傾向が見られた。見通しとしては、いずれも改善の見通しである。

### 卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-36.0	-28.0	8.0
製品・商品在庫	-24.0	-4.0	-16.0
資金繰り	-12.0	-8.0	-8.0
採算(収益)	-16.0	-16.0	4.0
従業員数(含む臨時・パート)	-16.0	-16.0	-4.0
貴社の業況(総合判断)	-28.0	-24.0	-8.0

### [繊維卸]

<産業資材関連>:荷動きが悪くなっているが、商品にバラツキがあるものの多少の荷動きが出てきた。

<寝装関連>:マイナスイオン、抗菌効果等を狙った機能商品の取組み、また超長綿使用ジャカード素材及びT/C交織素材の新商品開発等一過性で終わらない、先々年間商品として繋がる商品に取り組んでいる。

<インテリア関連>:相変わらず市場の動向も悪く、特に5月連休明けからの落ち込みがひどく更にシーズンオフにも入り大変厳しい。

<衣料関連>:年間を通して、一番の稼ぎシーズンをほぼ終え、いかに冬物の商品に転換できるか、いかに商売のボリュームを落とさずに来春夏の商品展開が始まる11月につなげられるか、いわゆるシーズンオフに入り、苦しい状況を迎えている。

世界の生産基盤の根幹を揺るがす事になった『SARS』の問題については、多大な影響が出ていると予想されるが、具体的にはメリット・デメリットともに、当業界に今の段階では、影響は見受けられない。

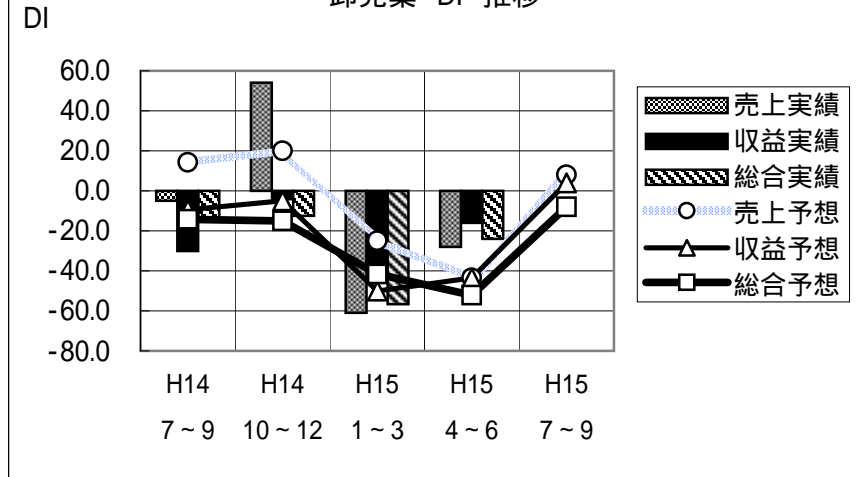
(繊維部会)

### (繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-45.0	-45.0	15.0
製品・商品在庫	-30.0	-10.0	-20.0
資金繰り	-15.0	-15.0	-10.0
採算(収益)	-15.0	-20.0	10.0
従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	-25.0	-10.0
貴社の業況(総合判断)	-25.0	-25.0	0.0

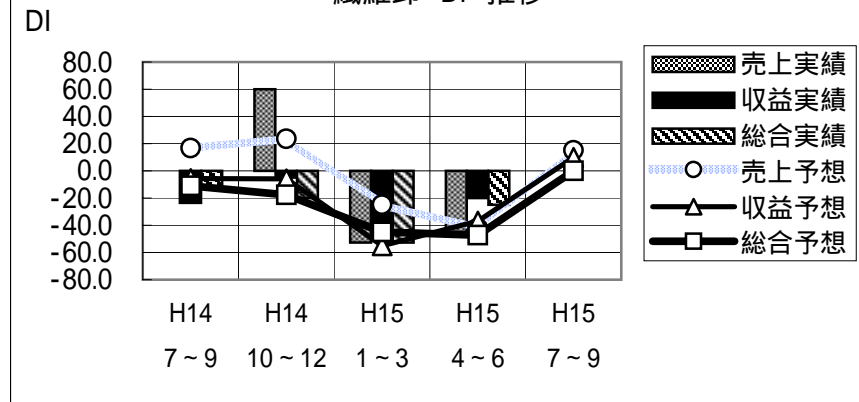
### 卸売業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-5.0	54.1	-60.9	-28.0	8.0
収益	-30.0	-4.2	-39.1	-16.0	4.0
総合	-15.0	-12.5	-56.6	-24.0	-8.0

### 繊維卸 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	60.0	-52.7	-45.0	15.0
収益	-23.5	-5.0	-36.8	-20.0	10.0
総合	-11.8	-20.0	-52.6	-25.0	0.0



## 小売業

売上DI値は 48.8、前期実績1～3月期( 43.5)に比して5.3ポイントの下降。収益DI値は 43.9、前期実績1～3月期( 51.3)に比して7.4ポイントの上昇、総合判断DI値は 31.7、前期実績1～3月期( 46.2)に比して14.5ポイントの上昇と、収益・総合では改善傾向であった。見通しとしては、売上、総合では多少改善の傾向である。

長引く不況により個人消費も低調に推移し、客数の減少や客単価の下落など殆どの個店では売上が減少している。市内の商店街を網羅しているインターネットサイト「がまぐねっ。」では市商連加入者約500店舗の情報、イベントの情報を発信中であり、販促に役立っている。商店街では、夏に向けてのイベントを企画中で、中心市街地活性化委員会では協議調整中である。

### 向こう3ヶ月の見通し

ボーナス支給時期であり、消費マインドは高まり、クーラーなどの家電、中元関連商品を期待する。イベントとして、中央通りフェスタ、あんどんまつり、舗車道完成イベントなどが予定されている。(商業部会)

## 小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-58.5	-48.8	-34.2
製品・商品在庫	0.0	-2.5	-4.9
資金繰り	-29.3	-29.2	-26.8
採算(収益)	-56.1	-43.9	-39.0
従業員数(含む臨時・パート)	4.9	2.4	4.9
貴社の業況(総合判断)	-29.3	-31.7	-29.3

## [飲食]

各店特に4月の歓迎会等もあり飲食店等を利用せず、例年より減少がみであった。大型チェーン店の大衆酒場等は、若い方々で値段を押さえて利用され、ますますであった。5月はゴールデンウィーク以後、各店とも利用客が少なく、特に6月は前年度より平均2割減と思われる。この頃、葬儀の折、非時券(寿し折り)が付かなくなった。との声も聞かれた。

### 向こう3ヶ月の見通し

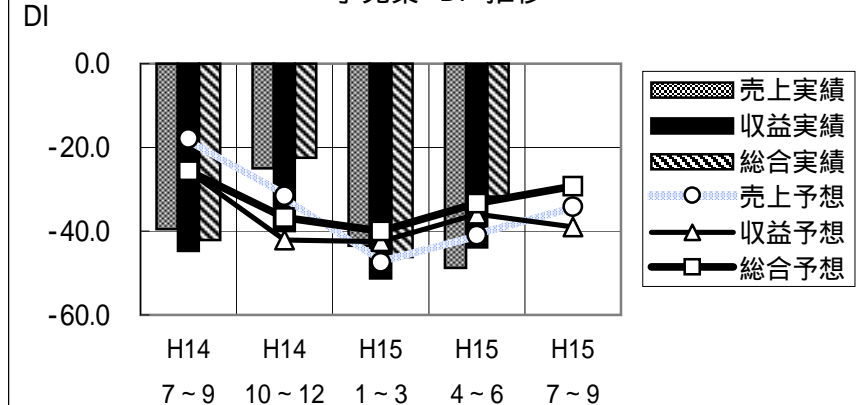
夏場も、あまり期待できず、学校の夏休み期間中は、多少家族連れで利用増も期待できるが、9月に入れば、減少すると思われる。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

## (飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-100.0	-88.9	-66.7
製品・商品在庫	-11.1	0.0	-11.1
資金繰り	-66.7	-77.8	-55.6
採算(収益)	-77.8	-77.8	-77.8
従業員数(含む臨時・パート)	11.1	0.0	11.1
貴社の業況(総合判断)	-66.7	-66.7	-55.6

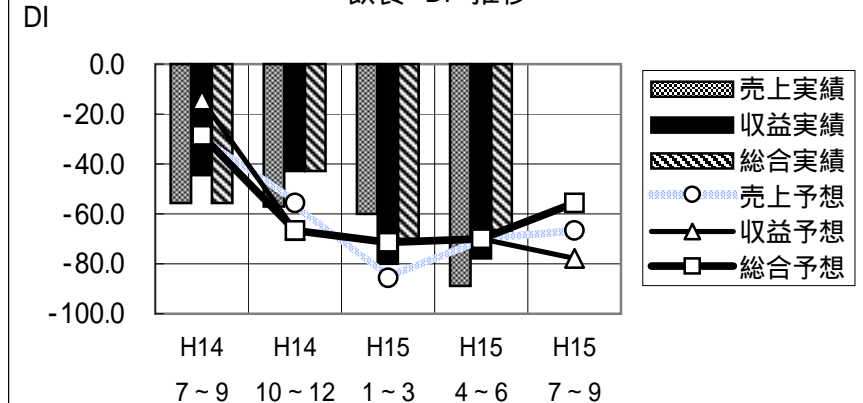
## 小売業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-39.5	-25.0	-43.5	-48.8	-34.2
収益	-44.7	-40.0	-51.3	-43.9	-39.0
総合	-42.1	-22.5	-46.2	-31.7	-29.3

## 飲食 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-55.6	-57.1	-60.0	-88.9	-66.7
収益	-44.5	-42.8	-80.0	-77.8	-77.8
総合	-55.6	-42.8	-70.0	-66.7	-55.6

## [その他小売(石油等)]

国際マーケットは保険料を含むタンカー船運賃の上昇やイラク原油の長期出荷停止の懸念から原油価格は一時的に上昇し、国内では全国的にガソリン価格が100円を超える売値で推移したが、イラク戦争の終結とともに原油価格は下落し、国内店頭価格はゴールデンウィーク前後で下落。仕入価格の部分的な下落に対し売値も下落しており、販売店の収益性は依然として改善されず、好転の光が見えない状況が続いている。

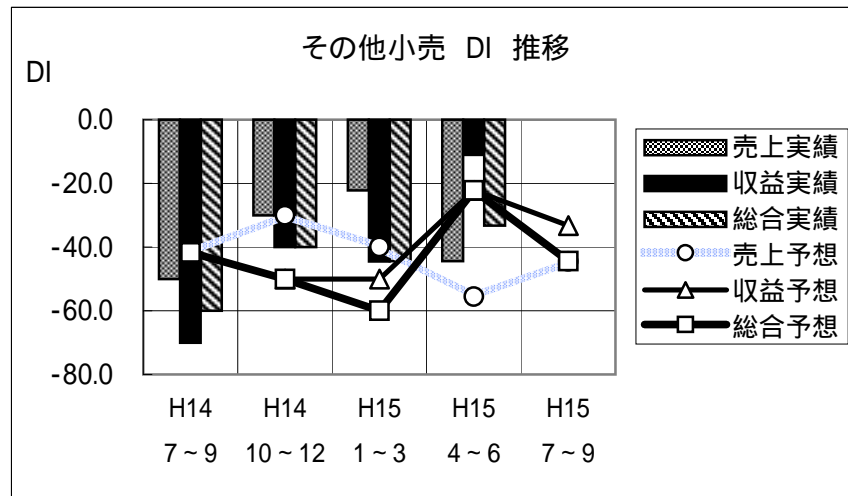
### 向こう3ヶ月の見通し

7月・8月はガソリンの需要期。行楽や帰省の動きと猛暑によるエアコン稼働などの気候により需要は変化するが、どれだけの販売を堅持もしくは拡販できるかが一つのポイントとなる。また、店頭価格と仕入価格の変化による口銭がどのようになるかが収支を左右する。昨年より仕入れ価格が連続して値上がりしており、これに対する価格転嫁ができずに利益圧迫の状態が続いている。(エネルギー部会)

## (その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-11.1	-44.4	-44.5
製品・商品在庫	-11.1	-11.1	-11.1
資金繰り	-22.2	-11.1	-22.2
採算(収益)	-44.4	-11.1	-33.3
従業員数(含む臨時・パート)	11.1	11.1	0.0
貴社の業況(総合判断)	-11.1	-33.3	-44.4



### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-50.0	-30.0	-22.2	-44.4	-44.5
収益	-70.0	-40.0	-44.5	-11.1	-33.3
総合	-60.0	-40.0	-44.4	-33.3	-44.4

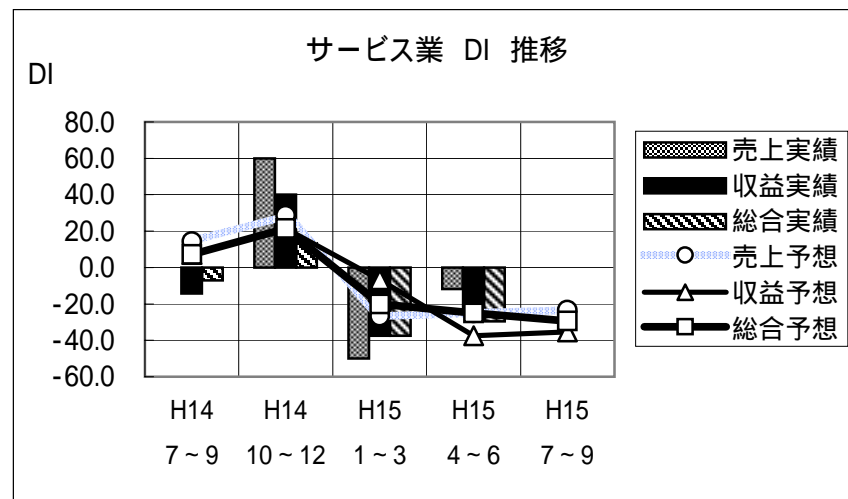
## サービス業

売上DI値は 11.8、前期実績1～3月期( 50.0)に比して38.2ポイントの上昇。収益DI値は 23.6、前期実績1～3月期( 37.5)に比して13.9ポイントの上昇、総合判断DI値は 29.5、前期実績1～3月期( 37.5)に比して8.0ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも横ばい傾向である。

## サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4～6月)	前期比 (平成15年1～3月)	来期見通し (平成15年7～9月)
生産額・売上額	-35.3	-11.8	-23.5
製品・商品在庫	0.0	-5.9	0.0
資金繰り	-29.4	-35.3	-35.3
採算(収益)	-41.1	-23.6	-35.3
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-47.0	-29.5	-29.4



### <業況判断DIの推移>

	H14.7～9月	10～12月	H15.1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	0.0	60.0	-50.0	-11.8	-23.5
収益	-14.3	40.0	-37.5	-23.6	-35.3
総合	-7.1	13.4	-37.5	-29.5	-29.4

## [旅館]

4月に行われた全国的な地方統一選挙は売上減少に大きく影響、5月にもその影響を引きずった。ゴールデンウィーク中も、飛び石連休による出控えで苦しかった。

### 向こう3ヶ月の見通し

7月以降の夏休みについては、昨年はラグーナ効果が売上増に寄与したが、ラグーナ効果は期待できない。蒲郡市観光協会で取り組んでいる大手旅行社とのタイアップ商品による集客も今一歩である。(観光部会)

## (旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4~6月)	前期比 (平成15年1~3月)	来期見通し (平成15年7~9月)
生産額・売上額	-75.0	-37.5	-50.0
製品・商品在庫	0.0	-12.5	0.0
資金繰り	-62.5	-62.5	-37.5
採算(収益)	-75.0	-50.0	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-87.5	-62.5	-37.5

## 運輸通信業

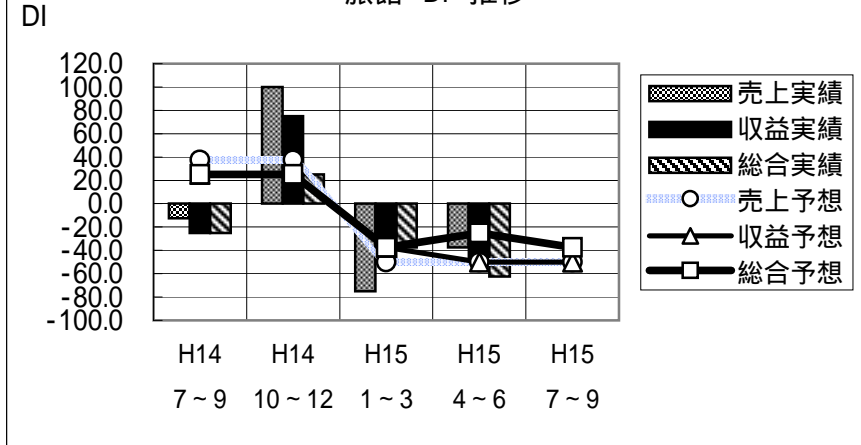
売上DI値は 16.7、前期実績1~3月期( 22.3)に比して5.6ポイントの上昇。収益DI値は 25.0、前期実績1~3月期( 22.2)に比して2.8ポイントの下降。総合判断DI値は 8.3、前期実績1~3月期( 22.2)に比して13.9ポイントの上昇と、売上・総合とも改善傾向にある。見通しとしては、総合は悪化傾向である。

## 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4~6月)	前期比 (平成15年1~3月)	来期見通し (平成15年7~9月)
生産額・売上額	-25.0	-16.7	-16.7
製品・商品在庫	-8.4	0.0	-16.7
資金繰り	-25.0	-8.3	-25.0
採算(収益)	-25.0	-25.0	-33.3
従業員数(含む臨時・パート)	8.3	8.4	8.3
貴社の業況(総合判断)	-16.6	-8.3	-33.3

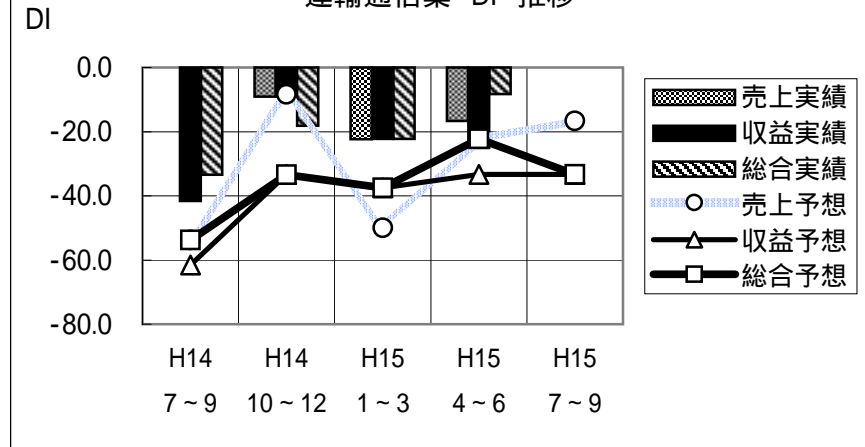
## 旅館 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-12.5	100.0	-75.0	-37.5	-50.0
収益	-25.0	75.0	-50.0	-50.0	-50.0
総合	-25.0	25.0	-37.5	-62.5	-37.5

## 運輸通信業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	-9.1	-22.3	-16.7	-16.7
収益	-41.6	-9.1	-22.2	-25.0	-33.3
総合	-33.4	-18.2	-22.2	-8.3	-33.3

**[貨物輸送]**

<海運業>:景気低迷と住宅着工数の低下により、荷動きが悪く、貨物(木材・製材・肥料・自動車)の取扱量は依然として低迷している。

今後の見通し、今年中、環境変化は予想できず、好転の兆しは無い。

<陸運業>:残念ながら荷動き状態は良くなかったと同時に5月の稼働日数の減は業界にとって影響は大きく好ましくない状況は続いている。貨物量についても相変わらず低迷を続けている。軽油価格については、徐々にではあるが下降しつつある。

今後の見通し、5月のゴールデンウィークもあり稼働日数が少なくあまり期待はできない。

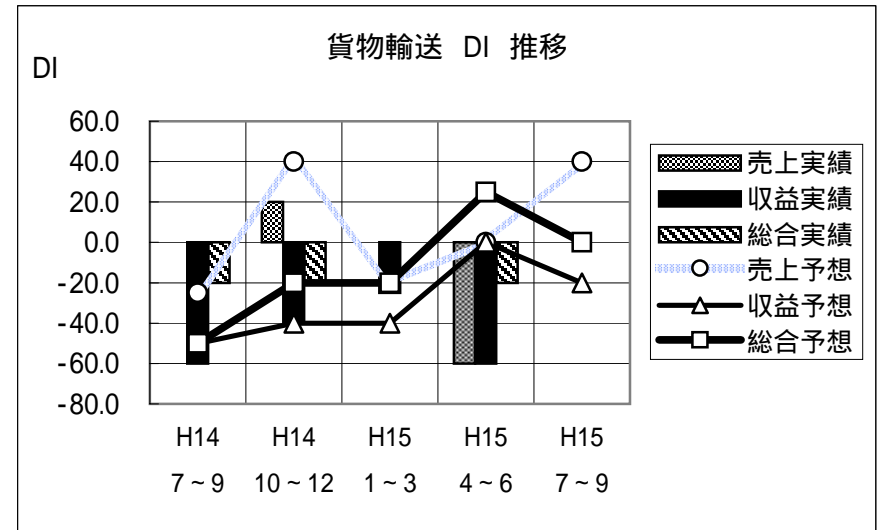
<バス業界>:ますますメディア商品、会員募集の依存度が高くなっている。泊まりは、新コース以外は少ない。相変わらず日帰りの安価な商品が大勢を占めている。今冬は、寒さのせい较去年に比べてスキーは微増で、ツアーは東大寺、二月堂のお水取り、伊豆の河津桜に人気があった。

今後の見通し、前年は桜の開花が早く、花見の対応ができなかった。今年の春も天候次第で花見のツアーに影響する。(運輸交通港湾部会)

**(貨物輸送)**

(DI 単位:%)

	前年同期比 (平成14年4~6月)	前期比 (平成15年1~3月)	来期見通し (平成15年7~9月)
生産額・売上額	-40.0	-60.0	40.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	-20.0
資金繰り	-20.0	0.0	0.0
採算(収益)	-60.0	-60.0	-20.0
従業員数(含む臨時・パート)	20.0	20.0	20.0
貴社の業況(総合判断)	-20.0	-20.0	0.0

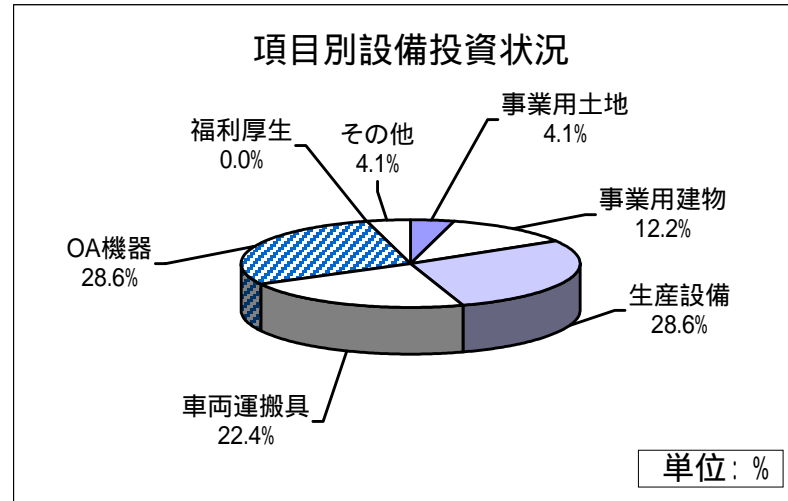
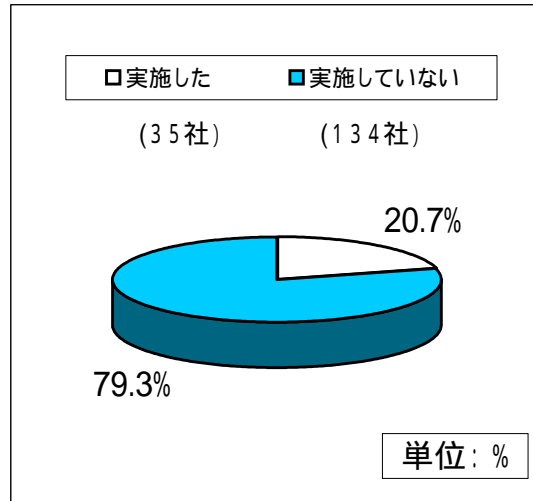


<業況判断DIの推移>

	H14.7~9月	10~12月	H15.1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	20.0	0.0	-60.0	40.0
収益	-60.0	-40.0	-25.0	-60.0	-20.0
総合	-20.0	-20.0	0.0	-20.0	0.0

## 7. 設備投資動向

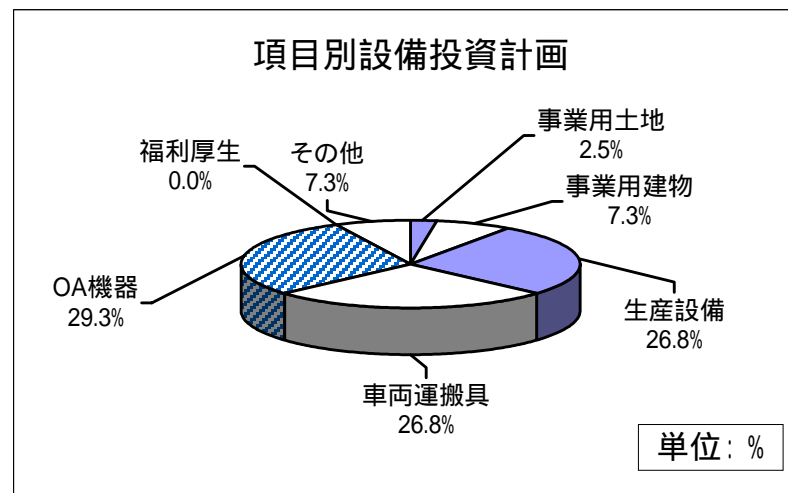
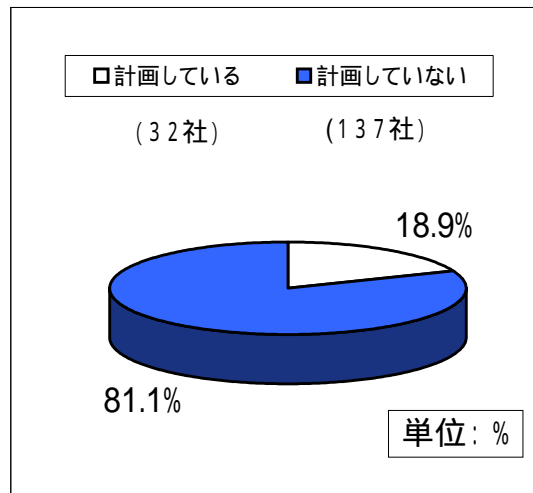
< 今期(H15.4~6月)設備投資実施状況 全業種 >



・4~6月期に設備投資を実施した企業は、35社(20.7%)あり、項目別には49件ある。そのうち生産設備(28.6%)、OA機器(28.6%)、車両運搬具(22.4%)に投資された。

・7~9月期に設備投資計画のある企業は、32社(18.9%)あり、項目別には41件ある。そのうち、OA機器(29.3%)、生産設備(26.8%)、車両運搬具(26.8%)の投資計画である。

< 来期(H15.7~9月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	2	1
事業用建物	6	3
生産設備	14	11
車両運搬具	11	11
OA機器	14	12
福利厚生	0	0
その他	2	3
計	49	41

(単位:件)

今期(H15.4~6月)、来期(H15.7~9月)設備投資実施、計画動向

	(単位:事業所)						
	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サ - ビス業	運輸通信業
1. 今期(H15.4~6月)	35	16	0	5	7	2	5
2. 来期(H15.7~9月)	32	15	1	6	5	2	3



## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 169 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	127 75.1%
2	利幅の縮小	96 56.8%
3	競争激化	85 50.3%
4	消費者ニーズの変化の対応	34 20.1%
5	販売納入先からの値下げ要請	33 19.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

・項目別経営上の問題点は、前回と比べ順位は同じである。

・業種別経営上の問題点は、建設業以外は全業種1位に  
“売上の停滞・減少”をあげている。

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 59 社	利幅の縮小 38 社 64.4%	競争激化 28 社 47.5%
建設業	競争激化 15 社	利幅の縮小 12 社 80.0%	売上の停滞・減少 10 社 66.7%
卸売業	売上の停滞・減少 25 社	競争激化 13 社 52.0%	利幅の縮小 12 社 48.0%
小売業	売上の停滞・減少 41 社	利幅の縮小 21 社 51.2%	競争激化 19 社 46.3%
サービス業	売上の停滞・減少 17 社	競争激化 8 社 47.1%	利幅の縮小 8 社 47.1%
運輸通信業	売上の停滞・減少 12 社	競争激化 5 社 41.7%	利幅の縮小 5 社 41.7%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

## 付帯調査(地域デ - タ)

番号	調査項目	単位	H15.7報告	基準日	H15.4報告	基準日	H15.1報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,938	H15.7.1	81,920	H15.4.1	82,067	H15.1.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	27,006	H15.7.1	26,904	H15.4.1	26,837	H15.1.1	"
3	15才～65才生産人口	人	54,825	H15.7.1	54,815	H15.4.1	54,837	H15.1.1	市民課
4	外国人登録者数	人	1,225	H15.7.1	1,137	H14.3.31	1,124	H14.12.31	"
5	建築確認届出件数	件	138	H15.4～6月	98	H15.1～3月	94	H14.10～12月	建築住宅課受付件数(別紙参照)
6	全国完全失業率	%	5.4	H15.5月	5.2	H15.2月	5.3	H14.11月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	3.8	H15.1～3月	4.1	H14.10～12月	4.1	H14.7～9月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.61	H15.5月	0.61	H15.2月	0.57	H14.11月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.47	H15.5月	0.62	H15.2月	0.57	H14.11月	蒲郡公共職業安定所(業務月報より)

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車新規登録届出数 (乗用車 季調・万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	485.1
1997年度	236	3.5	0.69	3.9	1,341,347	520	0.2	0.2	419.0
1998年度	平均	294	4.3	0.5	18.6	1,179,536	514	0.8	414.3
1999年度		320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	510	1.9	418.5
2000年度		320	4.7	0.62	16.6	1,213,157	515	3.2	425.8
2001年1月		317	4.9	0.65	0.8	81,348			0.5
2月	318	4.7	0.64	5.9	83,440			0.0	38.8
3月	343	4.7	0.61	5.7	94,829	518	2.1	1.0	60.0
4月	348	4.8	0.62	10.5	99,556			5.2	29.5
5月	348	4.9	0.61	4.3	100,250			2.9	30.0
6月	338	4.9	0.61	9.5	101,168	509	5.0	4.5	38.7
7月	330	5.0	0.60	5.1	103,135			2.7	40.5
8月	336	5.0	0.59	13.4	104,705			2.0	26.9
9月	357	5.3	0.57	11.8	102,507	503	4.5	4.7	37.7
10月	352	5.3	0.54	26.6	101,746			0.5	32.1
11月	350	5.4	0.52	13.6	105,743			0.4	34.5
12月	337	5.5	0.51	14.4	95,431	499	2.0	8.1	33.6
2002年1月	344	5.3	0.51	22.2	84,196			0.9	28.1
2月	356	5.3	0.50	16.1	85,775			5.6	39.4
3月	379	5.2	0.51	22.0	88,865	499	0.1	2.5	58.5
4月	375	5.2	0.52	17.9	98,924			0.6	31.1
5月	375	5.4	0.53	16.6	106,110			2.7	32.6
6月	368	5.4	0.53	7.6	101,502	*500	*5.4	2.0	38.5
7月	352	5.4	0.54	5.8	96,245			0.5	40.3
8月	361	5.4	0.54	20.3	97,653			0.9	28.3
9月	365	5.4	0.55	2.7	97,238	*500	*2.6	4.5	42.9
10月	362	5.5	0.56	1.9	103,567			1.0	34.3
11月	338	5.3	0.57	7.2	98,664			2.3	36.5
12月	331	5.3	0.59	0.3	92,184	*498	*1.5	1.1	33.7
1月	357	5.5	0.60	18.8	82,770			2.0	29.4
2月	349	5.2	0.61	1.4	83,399			1.3	41.4
3月	384	5.4	0.60	11.7	87,297	*496	*0.6	2.6	64.4
4月	385	5.4	0.60	4.3	100,276			1.2	29.0
5月	375	5.4	0.61	12.2	97,970	-	-	1.1	32.3
6月	-	-	-	-	-			-	*37.2
7月	342	5.3	0.62						
8	333	5.1	0.63						

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

\*は速報値(内閣府)

(総務省)(日本自動車販売協会連合会)